

第18項 問題行動と自我機能『現実検討』との関連

①問題行動の実体験の有無と自我機能『現実検討』

高校生の自我機能『現実検討』と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の実体験（「ある」「ない」の2水準）との関連を検討するため、自我機能調査票のうち『現実検討』尺度得点を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-18-1に示す。

問題行動の実体験の有無についての主効果による有意差のあった問題行動は、無免許運転、自転車窃盗、盗み、暴行、薬物・ドラッグ、重度の援助交際であった。無免許運転、自転車窃盗、盗み、暴行、薬物・ドラッグ、重度の援助交際の経験がある者の方が、ない者よりも自我機能『現実検討』尺度得点が高かった。

従って、恐喝、薬物・ドラッグ、性行為の強要の経験がある者の方が、ない者よりも、思考や知覚、判断などの認知的能力が充全であるかどうかの機能における発達が未熟であることが示された。

表4-18-1 問題行動の実体験の有無と自我機能『現実検討』

	男子		女子		主効果・交互作用
	ない	ある	ない	ある	
無免許	2.13(0.86)	2.56(0.93)	2.27(0.88)	2.60(0.87)	F(1,587)=8.95**(体験)
自転車窃盗	2.12(0.83)	2.62(1.04)	2.27(0.89)	2.49(0.72)	F(1,587)=7.219**(体験)
盗み	2.16(0.88)	2.39(0.89)	2.25(0.88)	2.52(0.90)	F(1,586)=6.01*(体験)
暴行	2.03(0.84)	2.44(0.91)	2.23(0.86)	2.72(0.94)	F(1,584)=21.07**(体験)
薬物	2.17(0.88)	2.88(0.67)	2.27(0.88)	3.38(0.73)	F(1,587)=9.99**(体験)
重援交	2.16(0.86)	2.82(0.98)	2.28(0.88)	3.57(-)	F(1,583)=4.57*(体験)

*p<0.05, **p<0.01

②問題行動に対する意識と自我機能『現実検討』

高校生の自我機能『現実検討』と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の「いけなさ」（「いい」「どちらでもない」「いけない」の3水準）との関連を検討するため、自我機能調査票のうち『現実検討』尺度得点を従属変数とした2×3の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-18-2に示す。

問題行動の「いけなさ」の主効果による有意差があったのは、無免許運転、盗み、恐喝、暴行、薬物・ドラッグ、軽度の援助交際、重度の援助交際、性行為の強要の8種類の問題行動であった。これらの問題行動を「いい」と思っている者の方が、「いけない」と思っている者よりも自我機能『現実検討』尺度得点が高かった。従って、これらの問題行動をいいと思っている者の方が、いけないことと思っている者よりも、思考や知覚、判断などの認知的能力が充全であるかどうかの機能における発達が未熟であることが示された。

なお、自転車窃盗および暴行については交互作用がみられた。

表4-18-2 問題行動に対する意識と自我機能『現実検討』

	男子			女子			主効果・交互作用
	いい	どちらでも	いけない	いい	どちらでも	いけない	
無免許	2.39(1.08)	2.41(0.96)	2.14(0.82)	2.82(1.09)	2.16(0.71)	2.26(0.87)	F(2, 584) = 5.54**(いけなさ)
自転車盗	2.58(1.14)	2.01(0.80)	2.19(0.87)	2.36(0.97)	2.90(1.13)	2.26(0.87)	F(2, 584) = 3.06*(交互作用)
盗み	2.64(1.16)	2.37(0.92)	2.16(0.86)	2.48(0.58)	3.17(1.06)	2.25(0.86)	F(2, 585) = 5.18**(いけなさ)
恐喝	2.36(1.08)	2.73(0.92)	2.16(0.86)	2.43(0.85)	3.73(0.70)	2.27(0.87)	F(2, 584) = 8.38**(いけなさ)
暴行	2.56(0.99)	2.21(0.96)	2.14(0.84)	2.68(1.10)	3.10(0.94)	2.22(0.84)	F(2, 582) = 5.40**(交互作用)
薬物	2.58(1.09)	2.46(0.96)	2.14(0.84)	3.53(0.99)	2.75(1.04)	2.24(0.85)	F(2, 585) = 13.67**(いけな)
軽援交	2.30(0.99)	2.21(0.75)	2.13(0.85)	2.46(0.87)	2.43(0.93)	2.19(0.86)	F(2, 582) = 3.68*(いけなさ)
重援交	2.46(1.00)	2.12(0.77)	2.13(0.86)	2.72(0.98)	2.35(0.90)	2.25(0.87)	F(2, 580) = 4.82**(いけなさ)
性強要	2.67(1.16)	2.19(0.86)	2.15(0.83)	2.79(1.29)	2.57(0.86)	2.25(0.87)	F(2, 580) = 4.02*(いけなさ)

*p<0.05, **p<0.01

③問題行動に対する姿勢と自我機能『現実検討』

高校生の自我機能『現実検討』と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動を「とめるか」（「とめない」「どちらでもない」「とめる」の3水準）との関連を検討するため、自我機能調査票のうち『現実検討』尺度得点を従属変数とした2×3の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-18-3に示す。

問題行動を「とめるか」の主効果による有意差があったのは、盗み、暴行、薬物・ドラッグ、軽度の援助交際の4種類の問題行動であった。これらの問題行動を「とめない」と思っている者の方が、「とめる」と思っている者よりも自我機能『現実検討』尺度得点が高かった。

従って、友だちが、盗み、暴行、薬物・ドラッグ、軽度の援助交際をしているのを見た時に「とめない」と思っている者の方が、「とめる」と思っている者よりも、思考や知覚、判断などの認知的能力が充満であるかどうかの機能における発達が未熟であることが示された。

表4-18-3 問題行動に対する姿勢と自我機能『現実検討』

	男子			女子			主効果・交互作用
	とめない	どちらでも	とめる	とめない	どちらでも	とめる	
盗み	2.41(1.10)	2.21(0.84)	2.16(0.84)	2.88(1.24)	2.65(0.97)	2.24(0.85)	F(2,584)=5.39**(とめるか)
暴行	3.19(0.88)	3.24(0.71)	3.16(0.79)	3.31(0.57)	3.45(0.76)	3.23(0.74)	F(2,580)=3.43*(とめるか)
薬物	2.37(0.99)	2.37(0.98)	2.17(0.87)	3.22(1.22)	2.41(0.94)	2.25(0.85)	F(2,584)=6.74**(とめるか)
軽援交	2.33(0.94)	2.11(0.82)	2.14(0.85)	2.52(0.93)	2.19(0.91)	2.26(0.86)	F(2,579)=3.50*(とめるか)

*p<0.05, **p<0.01

第19項 問題行動と親しい友人（同性）の有無との関連

①問題行動の実体験の有無と、親しい友人（同性）の有無

高校生の同性の親しい友人の有無（「いる」「いない」の2水準）と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の実体験との関連を検討するため、問題行動の実体験頻度を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-19-1に示す。

その結果、恐喝、薬物・ドラッグ、性行為の強要について交互作用が見られた。まず、恐喝及び薬物・ドラッグについては、男性で同性の親しい友人がいない群において、有意に体験頻度が高かった。すなわち、同性の親しい友人のいない男子は、その他の者よりも、恐喝をしたことがあるものも多く、薬物・ドラッグの使用経験があるものが多いことが示された。次に、性行為の強要においては、同性の親しい友人のいる群よりいない群の方が、そして親しい友人のいない群においても、男子より女子の方がより経験頻度は高かった。すなわち、同性の親しい友人のいないものは、いるものより性行為の強要をしたことがあるものも多く、かつ男子より女子の方が、より性行為を強要したことがあるものが多いことが示された。

表4-19-1 問題行動の実体験の有無と親しい友人（同性）の有無

	男子		女子		主効果・交互作用
	いない	いる	いない	いる	
恐喝	1.89(1.17)	1.06(0.31)	1.00(0.00)	1.01(0.08)	F(1,579) = 25.35*** (交互作用)
薬物	1.78(1.09)	1.06(0.39)	1.00(0.00)	1.01(0.18)	F(1,579) = 12.05** (交互作用)
性強要	1.56(1.13)	1.09(0.44)	2.00(1.73)	1.01(0.17)	F(1,576) = 4.89* (交互作用)

*p<0.05, **p<0.01

②問題行動に対する意識と親しい友人（同性）の有無

高校生の同性の親しい友人の有無（「いる」「いない」の2水準）と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の「いけなさ」との関連を検討するため、問題行動の「いけなさ」を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-19-2に示す。

同性の親しい友人の有無の主効果が有意であった問題行動は、無免許運転、自転車・バイク盗み、恐喝、性行為の強要の4種類であった。そのいずれにおいても、親しい同性の友人がいる被験者の方が、いない被験者よりも、「いけなさ」得点が高かった。すなわち、親しい同性の友人がいる者はいない者より、これらの問題行動を、よりいけないことであると思うことが示された。また、盗み、暴行、薬物・ドラッグ、重度の援助交際の4種類の問題行動については、交互作用がみられた。そのいずれにおいても、親しい同性の友人のいない男子が、他の群に比べて有意に「いけなさ」得点が低くなっていた。すなわち、親しい同性の友人のいない男子は、他の者に比べて、これらの問題行動をいけないとは思っていないことが示された。

表4-19-2 問題行動に対する意識と親しい友人（同性）の有無

	男子		女子		主効果・交互作用
	いない	いる	いない	いる	
無免許	2.56(1.59)	4.06(1.23)	3.67(1.53)	4.41(0.93)	F(1,578)=9.67**(有無)
自転車盗	3.33(1.58)	4.47(0.96)	4.00(1.73)	4.79(0.58)	F(1,578)=13.36*** (有無)
盗み	2.89(1.76)	4.57(0.88)	5.00(0.00)	4.81(0.53)	F(1,579)=14.956*** (交互作用)
恐喝	3.78(1.39)	4.59(0.92)	4.67(0.58)	4.85(0.51)	F(1,578)=4.21*(有無)
暴行	2.89(1.69)	4.07(1.09)	4.67(0.58)	4.60(0.73)	F(1,576)=4.16*(交互作用)
薬物	3.33(1.73)	4.46(1.13)	5.00(0.00)	4.76(0.66)	F(1,579)=5.08*(交互作用)
重援交	2.67(1.87)	3.74(1.40)	5.00(0.00)	4.45(0.98)	F(1,575)=4.23*(交互作用)
性強要	2.67(1.87)	4.43(1.03)	3.33(2.08)	4.56(0.77)	F(1,577)=23.96(有無)

*p<0.05, **p<0.01

③問題行動に対する姿勢と親しい友人（同性）の有無

高校生の同性の親しい友人の有無（「いる」「いない」の2水準）と性別（「男子」「女子」の2水準），問題行動を「とめるか」との関連を検討するため，問題行動を「とめるか」を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-19-3に示す。

同性の親しい友人の有無の主効果が有意であった問題行動は，無免許運転，盗み，恐喝，暴行，性行為の強要の5種類であった。そのいずれにおいても，親しい同性の友人がいる被験者の方が，いない被験者よりも，「とめるか」得点が高かった。すなわち，親しい同性の友人がいる者はいない者より，これらの問題行動をしようとしている友人を目撃したとき，より友人をとめることが示された。

さらに，薬物・ドラッグについては交互作用が見られた。親しい同性の友人のいない男子の群において，有意に「とめるか」得点が低かった。すなわち，親しい同性の友人のいない男子は，他の者に比べて，友人の問題行動をとめようと思う者は少ないことが示された。

表4-19-3 問題行動に対する姿勢と親しい友人（同性）の有無

	男子		女子		主効果・交互作用
	いない	いる	いない	いる	
無免許	2.11(1.36)	3.25(1.45)	2.00(1.73)	3.92(1.20)	F(1,579)=12.05**(有無)
盗み	2.22(1.39)	4.07(1.26)	4.00(1.73)	4.59(0.76)	F(1,578)=13.05*** (有無)
恐喝	3.22(1.56)	4.06(1.21)	3.67(2.31)	4.63(0.72)	F(1,578)=7.63*** (有無)
暴行	2.78(1.64)	3.89(1.23)	3.33(2.08)	4.45(0.76)	F(1,574)=10.95*** (有無)
薬物	3.11(1.90)	4.41(1.17)	4.67(0.58)	4.69(0.73)	F(1,578)=3.95*(交互作用)
性強要	2.44(1.94)	4.02(1.29)	2.33(2.31)	4.41(0.90)	F(1,574)=24.48*** (有無)

*p<0.05, **p<0.01